

備中とと道トレイル



ブッポウソウ・ウォーク

7月12日（土）参加のご案内：歩けば備中が見えてくる

とと道ウォーク大会がスタートし早や7年が過ぎ、国交省の夢街道ルネサンス、ユネスコの未来遺産認定もいただき、全コース60kmを制覇された方も増えてまいりました。

そこで新年度からは歩くだけではなく、沿道の風物をゆっくり楽しみながらのウォークを下記要領で開催することになりました。初回は宇治のブッポウソウ観察ウォーク。

備中とと道トレイルの一部を体験しながら、毎年春に日本に飛来、繁殖・子育てをして8月下旬には東南アジアのボルネオ島方面に帰ってゆく渡り鳥「ブッポウソウ」＝森の宝石を観察します。宇治では高梁野鳥の会の皆様が20を越える子育て用の巣箱を設置、日本でも有数のブッポウソウの子育て楽園になっています。既にとと道を歩かれた方も、初めての方も、新たなとと道をお楽しみください。



記

ウォーク大会募集人員：20名 募集締め切り：7月9日

ウォーク実施日／時間：令和7年7月12日(土) 9：00～15：00

場 所：高梁市宇治町内「とと道」とその周辺地域(雨天決行、台風接近、防風時は中止)。

添付のコース地図を参照ください(午前6km、午後3km、計4時間ほど歩きます)。

集合場所：高梁市宇治町宇治「高梁市宇治市民センター」(宇治高校そば)

駐車場：高梁市立宇治高等学校運動場

参加費：大人一人(中学生以上)2,000円、小学生以下(保護者同伴)は無料

持ち物及び服装：飲料水、長袖・長ズボン・熱中症予防帽子、山野が歩ける靴又は長靴。

昼 食：宇治の「カフェ麦」で昼食です。特別ランチをご用意できます(1,000円)、ご希望の方は参加申込みの際にご予約ください。お弁当持ち込みも可です。

ガイド担当：備中とと道トレイルは「トレイル協議会ガイド」がご案内します。

：ブッポウソウ観察は「高梁野鳥の会会員」がご案内します。お静かに観察下さい。

交 通：駐車場を出発、午前中に宇治北部を2時間、午後南部を1時間ほどのウォークです。

傷害保険加入：路面の悪いところ、夏草が茂っているところ、毒ヘビ、蜂、マダニ等の害虫による災害に対処するために加入します。

随行員数：3名～5名

参加ご希望の方は、下記の参加申込書の提出・参加費払込をもって予約確定とさせていただきます。7月3日以降個人の都合でのキャンセルについては参加費の払い戻しはできません。

参加申込及びお問い合わせ先：協議会の地域担当役員、あるいは事務局にお願いします。

〒714-1215 岡山県小田郡矢掛町中1208-1 金子晴彦 TEL 080-3390-6935

yakageshiroe@gmail.com 参加費払込先口座番号/郵便振替払口座 01320-4-91379

7.12 備中とと道トレイル ブッポウソウ・ウォーク参加申込

名前	住所	連絡先Tel	年齢	カフェ麦昼定食 予約有無？

備中とと道 トレイル宣言



2024.12.4設置「本ユネスコ協会連盟 未来遺産」



とと道笠尾一吹屋
紹介ビデオ

600万年前、ヒトとチンパンジーの共通祖先が分岐して以来、ヒトは動物の中で唯一、直立2足歩行を続けて今に至っています。私たちは備中の山中で、岡山県笠岡の金浦から北方60kmの吹屋へと瀬戸内海の鮮魚をヒトが背負い、夜掛けの12時間で届けた「歩く道」を再発見し、整備しました。

私たちは多くの方がこの「備中とと道トレイル」を次の3点を目指して、安全に、気ままに歩けるよう、維持、整備に務めることを宣言します。

■多くの方が「とと道」で直立2足歩行をフルに実践し、確かな健康を維持する

■多くの方が「とと道」沿道の豊かな歴史、文化、自然に親しく接し、備中の地を愛する

■多くの方が「とと道」を踏み固め、100年後の子どもたちに「歩く道」を伝える



2025.1.18設置「夢街道ルネサンス」

歩こう 愛そう ゆつまでも「備中とと道トレイル60km」

〒714-1215 岡山県小田郡矢掛町中1208-1 備中とと道トレイル推進協議会 事務局 080-3390-6935



とと道再開発
紹介ビデオ

山陽新聞digital

2025/04/28 朝刊

滴一滴

羽織っていた上着を脱ぎ、半袖で歩いても汗がにじんでくる。山の斜面や林の中。すれ違うのもやつの細い道もある。新緑の中の赤紫色のツツジに癒やされた▼今月中旬、「とと道」を歩く会に参加した。笠岡市金浦の港と、銅の生産で栄えた高梁市成羽町吹屋地区を結んだ全行程約60kmの「魚荷道」である。明治から大正期にかけて「魚仲仕」と呼ばれた男衆が40kgほどの荷をてんびん棒で担ぎ、リレー方式で運んだ▼先日歩いたのは井原市美星町内。ルートのごく一部だが、瀬戸内の魚の鮮度を保つため夜通し歩いた往時の苦勞を想像することができた。歩く会を企画したのは地域の歴史愛好家らでつくる「備中とと道トレイル推進協議会」だ▼歴史に埋もれていたルートの特定は協議会による粘り強い努力の結果だった。高齢者の聞き取りから始め、古い道しるべや牛馬供養碑などをチェックした。航空写真による植生の変化も手掛かりにしたという▼地道な活動は「地域の歴史文化や暮らしの記憶を発掘し、次世代へ継承している」として昨年、日本ユネスコ協会連盟のプロジェクト未来遺産に選ばれた▼協議会はウオーク大会のほか、個人で歩いてもらえるようガイドブックづくりなどにも取り組んでいる。季語は「山笑う」から「山滴る」へ。緑の中をゆっくりと歩くには絶好の季節だ。 2025・4・28

吉備高原山中のバードウォッチング

■ブッポウソウ

よく名前は聞きますがその「森の宝石」とも呼ばれる姿を見た方はあまりいないかもしれません。とと道沿道にはその繁殖のための巣箱が設置されています。

ブッポウソウは毎年6月頃に東南アジアから飛来、子育てをして8月末には帰ってゆきます。

地元の高梁野鳥の会メンバーは宇治の山中に合計20ほどの巣箱を設置、保護を続けてきました。その努力の甲斐あって、平成3年頃から飛来数は次第に増え、令和5年度の夏には40ほどのつがいの繁殖が確認されました。平均4羽が誕生したと想定すると合計160羽が誕生したことになります。

毎年7月には運がよければひな鳥に餌を運ぶのに忙しい親鳥の姿が観察できます。なお、鳴き声は「ゲッ、ゲッ、ゲッ」と誠に愛想の無い声です。

日本に飛来してくるブッポウソウは約千羽と言われていますが実はその70%が保護の甲斐あってこの中国地方で繁殖しているのです。

■鷲、鷹類の渡り

同時期に渡来繁殖する「ハチクマ」「サシバ」も宇治、吹屋地域で多数確認されます。本郷地区の「たかうね桜の森公園」上空を中心に、毎年繁殖を終えたハチクマ、サシバ達が集団になって東南アジア・ボルネオ島方面を目指して飛んでゆきます。

東から西へ向かって遥かの高い大空を集団になって飛んでゆく姿は秋（9月中旬の晴れて風のある日）の風物詩となっていて、県内外の多くの野鳥ファンが観察に訪れます。

2020年度には約400羽が中国山地沿いを季節風に乗って縦断、翌日には九州長崎県五島列島福江島大瀬崎展望台付近に集結しました。翌早朝5時頃から飛び立ち、上昇気流をとらえ、高く高く上昇、上空の気流に乗って東シナ海の島々を経由しながら渡ってゆきます。200~400数羽の群れが何群にもなり壮観で、見る者を魅了してやみません。

総数1万羽とも言われ、大瀬崎灯台を飛び立ったハチクマは南下して2~3日で大陸に到着するといわれています。

この地で初めて鷲・鷹の渡りが確認されたのは1989年頃です。地元高梁野鳥の会メンバーが「たかうね桜の森公園」付近の探鳥会に参加した際に偶然発見しました。いつの頃からこうした飛行が始ったのかは想像が付きません。長年にわたって繰り返されてきたことだけは確かで、自然界の生き物達の不思議な営みに改めて驚嘆させられます。

(小見山 節夫 記)

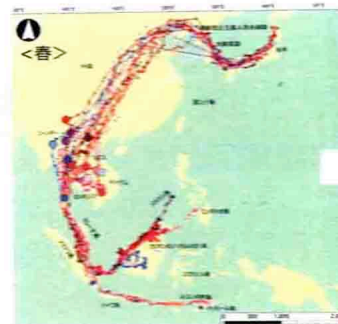
「備中とと道トレイル見聞録P36」より



ブッポウソウのつがい



ブッポウソウの繁殖保護施設



春の渡りのコース

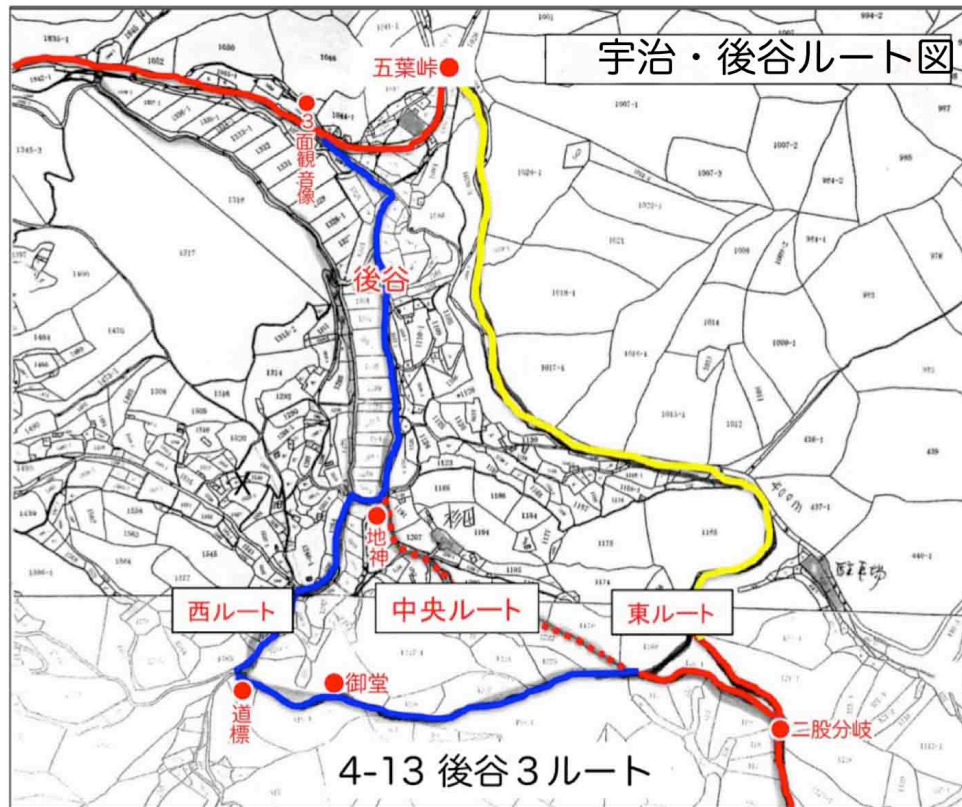


繁殖用巣箱
遠隔ビデオ観察が
できます

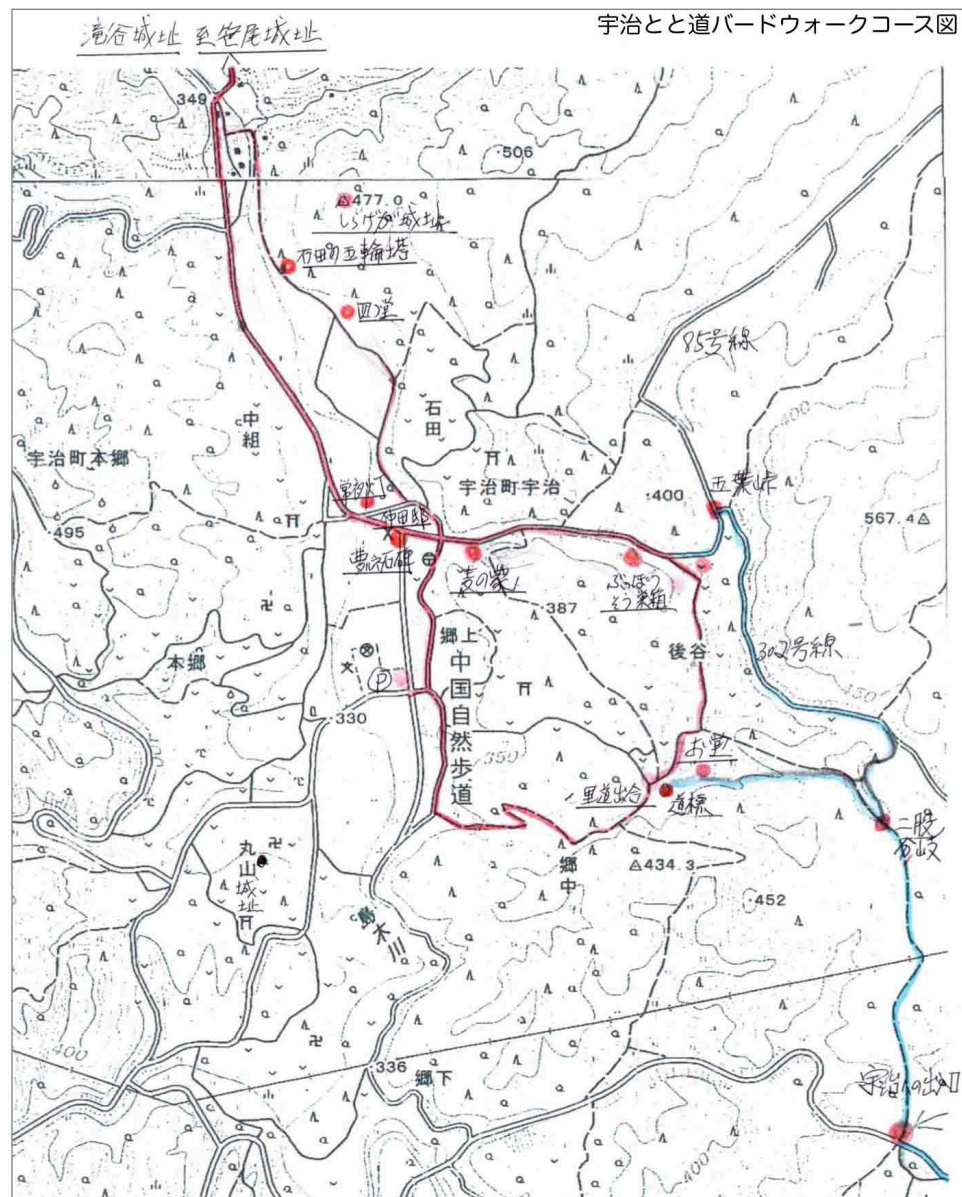


たかうね桜の森公園
上空に行くハチクマ





後谷へ下ると道の本来ルートは二股を左に進み、ほどなく右手に現れる中央ルートです。しかし、このルートの末端の急斜面では30年ほど前に伐採された沿道の膨大な杉がルートを完全に塞ぎ、安全に通抜けはできない状態になっていてお勧めできません。二股で右か左どちらかのルートをお選びください。右は容易に302号線に下り、五葉峠に出られます。左は山深い雰囲気のある道を下り里道に出て、後谷の昔ながらの田園風景の中を85号線に向かいます。この左右の道は宇治から松山に向かうかつての松山往来でした。



宇治町は南北10km、東西6kmとさほど広くはありません。しかし、中央を南北に流れる島木川沿いには下流から丸山城、しらげが城（左岸）、滝谷城（右岸）笹尾城（左岸）と4つもの山城跡が軒を接するように残っています。位置としては吹屋往来が深い山の中へと入ってゆく入り口に当たります。奥には巨万の富をもたらした吹屋の銅山、そしてその更に奥には往時日本の鉄生産の8割を占めたと言う中国山地のたたら製鉄が展開されていました。吹屋往来はそうした鉄や銅を流通するための重要なルートでした。この道を制することがこの一帯を制することにつながり、山城はそのために設置されたと言えるかもしれません。

今回のコースは合計9km、ゆっくり歩いて4時間ほどになります。午前中に宇治の北側の往復6km、午後には3kmの南側コースのウォークを予定します。